

宮沢賢治に思いを寄せた「黄いろのトマト」

テクノロジーが農業を変える フルーツのようなミニトマト

花巻土産に可愛らしい野菜が仲間入りした。それは宮沢賢治に思いを寄せた「黄いろのトマト」。まるで宝石のような黄色いミニトマトが木箱に並べられ、付録として宮沢賢治の童話が入っている。

見た目は一般的なミニトマトと変わらないが、口にすればハツとする。果実のように甘いのだ。酸味とのバランスもよく、例えるならブドウに近い。「えっ、これ本当にミニトマトですか？」とたずねてくるお客さんもいるという。

これだけの甘みを引き出すには、どれほどの熟練が必要なのだろう、と思いきや実は農業とは程遠い情報通信業の会社が生産している。

その会社は、花巻に本社を構え、ルーターやUSBアダプタなどモバイル通信機器の開発・製造・販売を展開する株式会社ネクスだ。

ネクスは、情報通信業で培った「M2M」のノウハウをいかし、異業種との融合を模索。「M2M」とは「マシンツーマシン」の略称で、機械と機械とが通信ネットワークを介して互いに情報をやり取りすることに、自律的に高度な制御や動作を行うシステムをいう。身近なところでは、自動販売機の在庫状況の遠隔監視や、ビルの空調管理システムなどに利用されているもの。

「ネクスファーム」という事業部を立ち上げ、自ら農業に挑戦する。温度、湿度、日照についてセンサーで察知。各種制御信号によって自動的に遮光カーテンの開閉や、換気扇などを複合的に動作させることができる。動画監視も付いているため、ビニールハウスから離れていても安心だ。当初はうまく育たずやせ細ったり、病気がかかったりしてしまったりもあつた。だが、その度に改善策を考え、工夫をこらして乗り越えてきた。

また、トマトをどのように販売展開していくのかも大きな課題だつた。しかし宮沢賢治作品の中に「黄いろのトマト」という未完成童話があつたことから、「物語のあるトマトとしてお土産にしよう」と童話付きの花巻土産が誕生した。

「黄いろのトマト」は、ネクスファームWEB上のオンラインショップで販売している他、花巻市内の各観光拠点などでも取り扱っている。

今後、ネクスでは農業の経験をつみながら、情報通信技術を用いた農業を提案・販売。さらには農業以外にも、情報通信技術を利用した異業種との融合にチャレンジしていく。



株式会社 ネクス

〒025-0323
岩手県花巻市柵ノ目2-32-1
TEL 0198-27-2851
URL farm.ncxx.co.jp



黄いろのミニトマト20個
桐箱入り
宮沢賢治 未完成童話【黄いろのトマト】
セットで1,800円

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様に「黄いろのトマト」をプレゼントします。詳しくは30ページ・アンケートプレゼントコーナーをご覧ください。

甘さの秘密は「多段式ポット栽培」

ネクスファームでは、「多段式ポット栽培」という農法を採用。健全な土壌を使用し、農薬の使用を最小限とし、作物ごとに必要な栄養を、最適な配分で配合した用土をポットに用いる。野菜の成長に合わせて段階的に栄養配分の異なるポットを重ねていくことで、成長に最適な栄養を与えることができる。自然な生命力を最大限に引き出されたトマトは、驚くほどの甘さになる。

